

リハ専門相談 事例紹介シリーズ ②

住環境を見直す。心の段差を低くする。

今回は、住環境の整備の事例についてご紹介します。障がい者の相談支援専門員の方からの1本の電話がきっかけでした。事例は10代後半の脳性麻痺の方で、移動には車椅子の介助を必要としていました。道路から自宅玄関まで20段以上の外階段があり、体重50kg弱の本人を母親が抱きかかえて移動していました。高等学校卒業後送り迎えの時にヘルパーの介助を受ける予定であり、安全に移動できるための方法についての助言を求められました。

地域支援室のSW、PT、リハビリテーション工学科職員が自宅に訪問し、住環境を確認すると、道路から玄関までの高低差は3m近くあります。また、自動車が通れるようにと段の一部が斜めに削られており、介助者にとっての不安要素となっていました(写真①)。

住宅改修によって階段昇降機(写真②)を設置する方法、スロープと昇降機(写真③)を設置する方法が考えられました。階段昇降車(可搬型階段昇降機)(写真④)などの福祉用具の利用も介助者の負担軽減と安全確保には良いと思われました。福祉用具業者の方に現地の確認とプランの提案をお願いしたところ、住宅改修では数百万円の費用がかかること、階段昇降車は雨天時に使用できないことなどの制限があることが分かり、すぐには導入できないことが分かりました。



写真① 外階段



写真② 階段昇降機



写真③ 昇降機



写真④ 可搬型階段昇降機



写真⑤ 移送帯

次に人的介助を中心に車椅子ごとの介助、背負い(おんぶ)介助、2人抱え上げ介助について検討しました。背負い、2人抱え上げ介助用の福祉用具として移送帯があります(写真⑤)。家族、ヘルパーと相談したところ、体重が50kg弱と介助者の負担が大きいため、移送帯を使った2人介助を行うこととなりました。移送帯を使うと、いざという時には両手を離しても肩のストラップにより対象者が転落することがありません。これにより、毎日の移動で双方の負担の軽減と安全性が確保されました。

楽しい慣れ親しんだ住まいの状況を大幅に変えるには、経済的な負担も含め、色々な意味で勇気のいることです。介護保険制度や身体障害者手帳をお持ちの方であれば各自治体の助成を受けられる場合もあります。助成を受けるのは1度きりの場合も多いですので、どの部分に力点を置いて改修するのが良いか、将来の変化も視野に入れたプランの検討をすることで、安心して長く暮らすことのできる住まい作りができると思います。

(平田 学)